

創造性を養う「20%タイム」

SYSTEM

このコーナーでは、企業のユニークな制度や取り組みを紹介します。
今回はグーグルの「20%タイム」を紹介します。

グーグルの「20%タイム」とは、勤務時間の20%を現在行っている仕事とは関係ないことに費やしてもいい制度。「Gメール」など、グーグルの斬新なサービスや商品の半数以上が、この「20%タイム」から生まれているといわれています。現在進行中の仕事からいったん離れることで、創造力が無限になり、画期的なアイデアが浮かぶようになるそうです。

ゆるい「縛り」を設けておくと創造性が発揮される

ただ、どの企業でも「20%タイム」を導入すれば効果が上がるのでしょうか？ 必ずしもそうとはいえません。まったくの自由時間だと、どのように過ごせばよいのかわからない社員が出てきそうです。果ては、自由時間に怠け出す社員が出てくる可能性もないとはいえません。

このような制度を導入する際は、簡単なルールを作ることをおすすめします。

- どんなアイデアを思いついたのかレポートを提出する
- 他のメンバーと一緒に行動してはいけない

などというように、ゆるい「縛り」を設けておくと、逆に創造性が発揮されるかもしれません。制度が定着し、効果が出るにつれ、段階的にルールをなくしていけばいいのです。

企画、開発、マーケティングといった部署では特に効果が期待できる「20%タイム」。まずは半分の「10%タイム」から始めて、様子を見るのも一案だと思います。